

## 近畿圏広域計画検討会議 第3回幹事会 議事要旨

1. 開催日時：平成19年5月11日（金） 10：00～12：00

2. 場 所：合同庁舎1号館第1別館2階大会議室

3. 出席者：別紙参照

### 4. 議事要旨

#### (1) 近畿圏の目指すべき姿について

○「(仮称)関西元気プラン」の名称について

- ・ 「(仮称)関西元気プラン」の名称については、今回の計画が広く一般の人にわかりやすく伝わるように愛称を付けたものである。他によい案があれば、頂きたい。意見が出ない場合は、「関西元気プラン」に決定したい。

○「近畿圏の目指す姿(たたき台)」について

- ・ これまで各機関や学識者会議での意見を反映させる方向で資料を作成してきたが、近畿圏がどうあるべきか、何をしたいのかを明確にしていく必要があることから、6月15日の第2回検討会議では、「近畿圏の目指す姿(たたき台)」とは全く別の形とし、具体的に何をしたいのかが判る資料とする。
- ・ 6月15日の第2回検討会議では、今回の計画の基本的な方向性について委員の皆様に議論して頂く場とする。

〈各機関から出た意見〉

◇全般

- ・ マスコミや一般の方にこれまでの国土計画との違いを訊かれたとき、「今まではバラバラにやってきたが、今回こそは近畿内で協力し、まとまってこのような圏域をつくる計画にする」と言えるようにすべきである。
- ・ やって当たり前のことや既にほぼ合意されているようなことは、「骨太の柱」には書くべきではなく、近畿圏で不足している点書くべきである。
- ・ 戦略的な計画であるのならば目標を掲げるべき。
- ・ 首都機能のバックアップをひとつの柱としてほしい。
- ・ 圏域構造の観点が弱い。機能を集中させた方がよいもの、機能が分散していた方がよいものがある。交通・通信などのネットワークを使ってできるものは集中させる必要はないのではいか。
- ・ 教育、人材育成の内容が少ない。若者が関西に魅力を感じ、そこで新しい仕事を作って関西のために頑張るといった流れを作るべき。関西の優秀な人材は、東京に流れてしまっている。

◇「1. ほんまもんを味わえる近畿」について

- ・ 近畿圏を「文化首都」として打ち出すべき。近畿圏は古くからの日本文化の蓄積があり、ジャパンスターダートとは違う文化が形成されている。このような独自の文化は世界に通用する。
- ・ 歴史文化に裏打ちされたオンリーワンの文化があるということを打ち出すべき。

◇「2. 人・モノ・情報の表玄関・交流拠点」について

- ・ 「表玄関」はやめた方がよい。玄関は素通りのイメージになる。羽田を通過してそこから近畿に来てもらってもよい。「人や情報を集めるメッカ」のような表現が良いのでは。

◇「6. 次代に誇れる日本のくにつくりを牽引する”西日本の雄”」について

- ・ 「東京に対抗して同じようなものを目指すのではなく、東京にない、近畿らしさを目指すなら「西日本の雄」という表現はどうかと思う。
- ・ 「西日本の雄」という言い方をすると、関西と中部の間に溝をつくり、中部圏や首都圏との対立構造になる。

◇「8. 共助型の新社会モデルの推進圏域」について

- ・ これからは府県間の連携が必要。役割分担しながら、互いに使えるものを作るなど、新しい協力体制を打ち出すことは新鮮でよい。
- ・ 奈良県で平城宮跡を活かす方法が提言されている。地元の奈良県以外でも、近畿圏全体でみたらこんないいことがあるので一緒に応援・推進するなどの戦略が重要ではないか。

○6月15日第2回検討会議について

- ・ 会議の進め方については、単に事務局案を了承するのではなく、委員の皆様で議論する場とする。

○「(仮称) 関西元気プランの位置付け」について

- ・ 近畿圏広域地方計画の位置付けを整理し、構成機関で認識の共有を図れるものとする。

**(2) 第2回学識者会議について**

- ・ 開催日程と、学識者にアドバイス頂きたい事項について、事務局より説明。

**(3) その他**

- ・ 第2回検討会議の日時・場所、委員と幹事の交替について、事務局より説明。